

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 17 号:2011 年 6 月－7 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2011 年上半期のウズベキスタンの GDP 伸び率が 8%

2011 年上半期では、工業生産の伸び率が 6.8% (2010 年上半期は 8%)、消費財が 12.3% (同 11.8%)、農産物が 6.7% (同 6.9%) であった。貿易高は 20.9% 伸び、輸出が 18.7% 増、輸入が 24.3% 増となった。貿易黒字は 24 億ドルであった。

欧州復興開発銀行 (EBRD) がウズベキスタンの 2011 年－2012 年の経済成長予測を下方修正

報告書「EBRD 支援諸国における地域経済の展望」によると、ウズベキスタンの GDP は 2011 年には 7% 増、2012 年には 7.5% 増になると予測されている。以前、EBRD の専門家らは、ウズベキスタン経済が 2011 年には 8.5%、2012 年には 8%、それぞれ成長すると見ていた。

二カ国関係

サウジ開発基金 (SFD) がウズベキスタン国営自動車幹線道路「サマルカンドーグザル」区間の建設・再建に 3,000 万ドルを融資へ

この決定は、「ウズベキスタン共和国とサウジアラビア王国間における貿易、経済、科学、技術、文化、スポーツ、青少年分野での協力に関する協定」の進捗状況監督共同委員会が 6 月に開いた会議の枠内で採択されたものである。プロジェクトの総額は 1 億ドルである。プロジェクトはウズベキスタン国営自動車幹線道路の一部をなしている。

ウズベキスタン商工会議所と Uzbek-Chinese Trading House が Chamber Invest Group、International Business Travel の 2 社を新たに設立

Chamber Invest Group は、ウズベキスタンの企業家らと海外パートナーとの実務関係の調整に関する商工会議所の戦略目的の実現を促進することを目的とした企業である。同社はまた、中小企業や民間企業が海外製の最先端技術を導入する際の支援を行うと

ともに、商工会議所加盟者らの対外貿易・投資関係の拡大にも取り組む予定である。

International Business Travel は、全世界規模における見本市・工業企業への視察ツアーの企画運営に特化する。現在同社は、東南アジア、中東、ラテンアメリカ、EU 諸国へのツアーを提案している。また、中国との協力が同社の優先的事業方針の一つとなっている。

投資政策

国際金融機関 (IFIs) が総額 38 億 6,400 万ドルにのぼるプロジェクト 198 件を実現 (ウズベキスタン財務省の情報による)

主なパートナーは、アジア開発銀行 (ADB) - 20 億 8,300 万ドル、世界銀行 (WB) - 13 億 1,300 万ドル、イスラム開発銀行 (IsDB) - 4 億 6,709 万ドルである。上記 IFIs からの融資は、保健、教育、アカデミック・リセおよび専門学校の建設・設備、飲料水給水インフラ・公共事業インフラの完全化、エネルギー・セクターの再建・近代化等の分野において、戦略的重要性を有する投資プロジェクトの実現に充てられている。

将来的には下記の内容が IFIs との協力の主たる方向性となる。

(1) 豊富な天然資源、鉱物資源、炭化水素資源、農業資源の加工を目的とした構造改革および経済多角化プログラム

(2) 民間企業および非国営経済セクターの支援と将来的な発展

(3) 農業および農業関連部門の物資基盤の改革、強化

(4) 社会セクター発展の支援、現代的な教育・保健システム基盤の強化

(5) 金融・銀行システムの発展 (国家融資発展プロジェクトへの資金提供、商業銀行へのクレジットラインの提供を含む)

ウズベキスタン銀行組合付属機関として投資プロジェクト設計文書作成融資基金を設置

同基金の任務は次の通りである。

(1) 競争入札によるプロジェクト構想の選抜、経済発展における優先的な方向性を見据えたプロジェクト設計文書作成への融資

(2) 国内融資機関による投資プロジェクトへの融資の促進

この公的基金の設立者は、銀行協会、商工会議所、銀行、非銀行系融資機関、融資機関である。同基金の原資は 11 億スムと定められている。

ウズベキスタンで新法「産業政策について」策定の動き

ウズベキスタン議会下院委員会は、産業問題に関する新法の策定を提案した。この法案は、国家的な産業発展システムの確立に関する問題の調整、全権機関の決定、産

業発展プログラムのシステムに対する基本的要求事項の策定といった一連の問題の解決を目指すものである。法案は、産業政策の策定時における国と実業界の間の法に基づく相互協力基盤を築くものとなる。

ウズベキスタンとイスラム開発銀行（IsDB）が 2011 年－2013 年の協力プログラムに署名

このプログラムは、ウズベキスタンにおける 11 の投資プロジェクト（総額 6 億 5,550 万ドル）を盛り込んだものである。ウズベキスタンは 2003 年に IsDB に加盟し、第 55 番目の加盟国となった。ウズベキスタンと IsDB の協力プログラムの枠内では、現在までに、総額 4 億 6,400 万ドルにのぼる 15 のプロジェクトが実現済み、または実現中となっている。

エネルギー・セクター

国営株式会社ウズベクエネルギー、2011 年－2014 年にタシケント州チャトカル川でニジネチャトカリスカヤ水力発電所の建設を計画

プロジェクト総額は 1 億 550 万ドルである。プロジェクトのフィージビリティスタディは年末までにまとめられる予定である。出力 100MW、年間発電量 3 億 5,000 万 kWh のこの水力発電所は、自然水流を利用して建設される。プロジェクト資金は、ウズベキスタン復興開発基金からの融資、ウズベクエネルギーの自己資金、国内諸行からの借入れによって賄われる。

国営持株会社ウズベクネフチェガス、2011 年末までにムバレクガス精製工場の近代化を実施

プロジェクトの大部分は、プロパン・ブタン混合ガス製造プラントが占めている。プロパン・ブタン混合ガス製造プラントの第 1 期建設は 2011 年末に完工の予定である。このプラントでは毎年、天然ガス 120 億 m³ の加工と、液化ガス 25 万 8,000 トン、ガスコンデンセート 12 万 5,000 トンの製造が行われる。製品の 80% 超は輸出される予定である。総額 2 億 4,400 万ドルにのぼるこのプロジェクトの資金は、中国開発銀行からの融資 8,500 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金からの借入れ 5,540 万ドル、国内諸行からの融資 5,000 万ドル、ウズベクネフチェガスの自己資金 5,360 万ドルによって賄われている。

国営持株会社ウズベクネフチェガス、2016 年までに 78 の投資プロジェクト（総額 286 億ドル）を実現

炭化水素資源の埋蔵量成長率の今後の安定化と増強を目的として、ウズベクネフチ

ェガスは、2020 年の炭化水素埋蔵量を、ガスで 1.25 倍、石油で 1.65 倍、コンデンセートで 1.33 倍（数字はいずれも対 2010 年比）にそれぞれ増加させることを盛り込んだ「2020 年までのウズベキスタンの石油ガス部門発展コンセプト」を策定した。これによると、試探掘および層序試錐の年間作業量は 2.5 倍増の総延長 30 万 m に達するという。また、ハイテク技術を応用した三次元地震探査 (3D) の作業量が、2010 年の 1,639km² から 2020 年には 4,000 km² へと大幅に増加すると同時に、従来型の二次元探査 (2D) の作業量が 2010 年の総延長 1 万 6,851km から 2020 年には 1 万 5,100km に縮小する予定である。

自動車・輸送セクター

タシケント州の物流センター「アングレン」、2011 年－2012 年に 3,000 万ドルを投じてコンテナ処理能力を拡大

新たなコンテナターミナルの建設に 430 万ドルを投じ、年間の処理規模をコンテナ 5 万 1,000 個に拡大する計画が立てられている。処理能力の拡大が必要となったのは、自動車工場 GM Uzbekistan への組付け部品の供給量が増えたためである。また、駐車場の拡大、ならびにウズベキスタンドイツ合弁企業 JV MAN Auto-Uzbekistan からのコンテナ牽引車 250 台の購入（総額 2,500 万ドル）が予定されている。アングレンは 2010 年にも MAN 社の牽引車 250 台を総額 3,650 万ドルで買い付けている。プロジェクト資金は、アングレンの創始者、すなわちウズアフトサノアト、ウズベキスタン・テミル・イウラリ、ウズベクネフチェガス、ウズキミョサノアト、ウズストロイマテリアリィ、食品油脂産業協会の自己資金によって賄われる。

ドイツの Lemken、公開型株式会社「ユニット機械工場」をベースとしてタシケントに農業機械製造工場を建設の予定

各年の設計生産能力は、ロータリーハロー 300 台、ディスクハロー 200 台、プラウアタッチメント 300 台となる。第 1 段階における機械の製造は、セミノックダウン方式によるパーツの供給をベースとして行われる予定である。同工場建設第 1 段階の総額は、200 万ドルである。第 2 段階では、主要生産の 50% 近くのローカライズというレベルを達成する予定である。プロジェクトの資金は、ドイツ側企業による設備・ノウハウ供給という形での出資で賄われる予定であり、工場建設用地の提供がウズベキスタン側の出資となる。

サマルカンド州の自動車工場である有限責任会社サムアフトが、本年、車両 2,650 台（トラック 850 台、バス 1,800 台）を製造の予定

ウズベキスタンの諸企業は同工場の需要を視野に入れ、180 種超の部品をローカライ

ズした。本年、サムアフトが買付けた地元製品は総額 45 億スムにのぼる。2012 年にはこの額を 52 億スムに伸ばす予定である。

I. カリモフ大統領、中央アジア諸国とペルシャ湾諸港を結ぶ新規国際輸送回廊の建設に関する協定を承認

イラン、オマーン、カタール、トルクメニスタン、ウズベキスタン間における新規国際輸送回廊建設に関する協定は、2011 年 4 月 25 日にアシハバード（トルクメニスタン）で調印済みである。

その他のセクター

2011 年にウズベキスタン初の試験的風力発電機（出力 750kW）が建設される予定

今日まで、ウズベキスタンでは風力が発電に利用されてこなかった。このプロジェクトは、国営株式会社ウズベクエネルゴの自己資金で実現される予定であり、その総額は 200 万ドルを超える見込みである。プロジェクト実現の一環として、2010 年 1 月にチャルヴァクスコエ貯水池地区（タシケント州ポスタンリュクスキー地区ユビレイヌィ町）に、高さ 40m の気象観測用マストが設置された。

ナボイ鉱山製錬コンビナート、金生産量の拡大を目的とした露天掘りピット「ベツソパンタウ」の建設に着手

同コンビナートでは 2011 年末までに準備作業を終え、2012 年初頭には剥土作業に着手し、2012 年半ばにピットでの生産を開始する予定である。設計生産量（年間鉱石採掘量として約 1,500 万 m³）に到達するのは 2015 年の予定である。上記作業への投資額は、6,000 万ドルにのぼる。近年、同コンビナートでの金生産量は、国内総生産量が年間 85 トン前後であるのに対し 60 トンを超えていた。